



湯川村中台集落 実証実験調査報告

福島大学 岩崎ゼミナール

安齋美沙綺・稲田茜・佐藤菜生
杉崎哲平・深澤優輝・中村允人



湯川村 中台集落

【人口】(H24)

80人

(男性:女性=39:41)

世帯数21世帯

高齢化率36.3%

【農業経営】

21世帯中19世帯が農家
主に米、野菜が中心





1年目（昨年度）の活動について



1.調査目的

- ・中台集落はどんな集落？
- ・いいところはなんだろう？
- ・これからどんなことができるか？

→ 活性化の取り組みについて考えていきたい！

日程	内容
第一回調査 2012年 6月29日	・ 集落予備調査 ・ 湯川村役場訪問
第二回調査 2012年 8月19日～21日	・ 集落調査
第三回調査 2012年 11月3日	・ 中台集落収穫祭参加
第四回(発表) 2012年 11月22日	・ 湯川村シンポジウムでの報告会
第五回調査 2013年 3月24日	・ 中台集落のお祭り「百万遍」に参加

2. 昨年の調査の概要

○ 集落内の生活・営農状況及び 集落活性化に対する意識調査



戸別聴き取り調査(22戸中19戸が回答)
アンケート調査(80名中46名が回答)を実施

○ 集落の魅力の発見



集落内のフィールドワークを元に
『地域資源マップ』を作成

○ 空き家や蔵の活用法の検討



空き家・蔵の実測、平面・立面図を作成

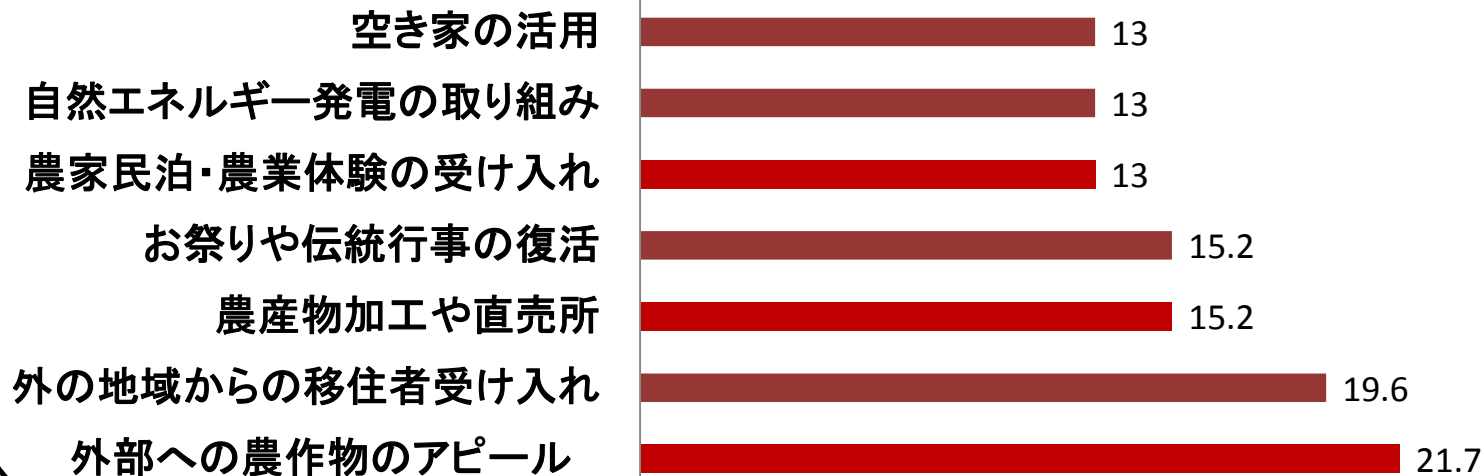


アンケート結果

集落活性化のために「外部への農作物のアピール」「農産物加工や直売所」「農家民泊・農業体験」を考える人が多い。(全体の49.9%が回答)

『集落活性化のために行いたいこと』

(複数回答 単位:%)



➡ **できそうなことから実際に取り組んでみよう!**

地域資源マップ



3-1. 昨年の調査結果からの提案

調査結果に基づいて議論を重ね

SWOT分析(強みと弱みを掛け合わせる分析)を行った。



1. 空き家の有効活用

- ・空き家を農業体験・田舎暮らし体験に来た人への拠点として利用
→ 可能性を探るため、まずは学生がプレ移住体験を行う

2. 耕作放棄地の解消

- ・プレ移住している方に耕作放棄地を開放
→ 学生が耕作放棄地にそばを植え、そば打ち体験につなげる

3. 新たな「道の駅」への関わり

- ・中台で収穫された物を道の駅で販売
- ・野菜の出荷方法の検討

3-2. 空き家について

空き家があることの問題点

老朽化 の進行	雪・風 植物	犯罪の 誘発
------------	-----------	-----------



当初、空き家を実証実験の拠点にしようとしたが...

空き家の持ち主の一時帰省により、宿泊利用は叶わなかった。

空き家の有効活用→課題が多い

□湯川村特有の理由

- ・土地・家屋に歴史がある
- ・村内の親戚・集落関係との兼ね合い



「空き家の適正に関する条例」

の制定に向けて動いている

例: 空き家の解体、改修費用の補助など
(改修の場合、5年間は居住してもらう)

3-3.耕作放棄地について

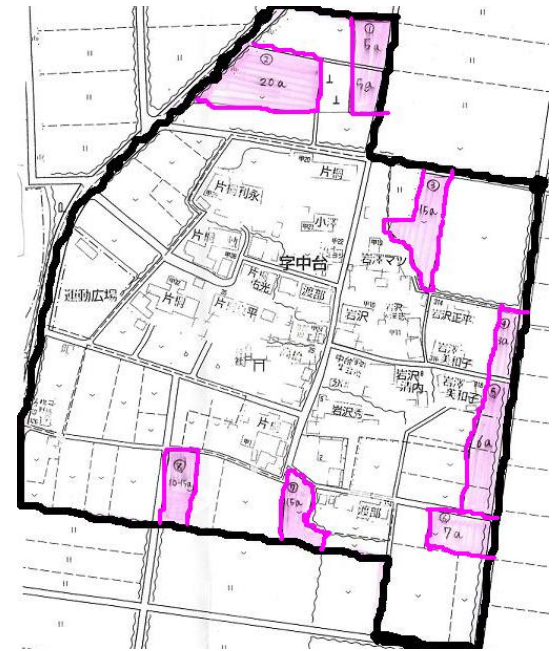
昨年の提案

- ・耕作放棄地 → 移住者に畑として利用してもらう。
- 例) 栽培しやすい蕎麦(ソバ)を蒔く。

問題点

- ・湯川の**土地**が蕎麦に適さない。
- ・耕作放棄地の土地が小さく、点々としている
→ **機械が入らない**。

蕎麦刈り体験を、させていただきました！





2年目（今年度）の活動について



1.調査目的

1. 昨年度に引き続き、**中台集落の「お宝」**を探そう！
2. 道の駅の活用方法を考えよう！
3. 地域の歴史・文化を学び、**次世代へ継承**するための方法を考えよう！

日程	内容
第一回調査 8月19日～20日	<ul style="list-style-type: none">・ 郷土料理講習会（こづゆ、ちまき）・ トマト収穫作業体験・ 地域史調査
第二回調査 11月5日	<ul style="list-style-type: none">・ そば刈り体験・ ほうき作り体験・ 柿収穫体験
第三回調査 11月15日	<ul style="list-style-type: none">・ 道の駅駅長神田さんへの聞き取り・ 村役場地域振興課聞き取り・ 中台三賢人聞き取り

→ 地域資源(宝)発見調査票を作成

2-1.道の駅について

- ・現在湯川村と会津坂下町を中心に整備を進める
- ・湯川村の49号国道と阿賀川沿いに建設中



会津のへそ！ <http://heso-aizu.jp/>

人の駅 「交流促進施設」

- ・地域の諸会議の際利用
- ・災害時、水防団の待機所として活用

川の駅

- ・「消防訓練広場」 防災訓練に活用
- ・「多目的自由広場」 イベント時に活用

道の駅 「地域振興施設」

- ・農産物直売所、物産販売、レストラン
- ・地域情報発信

2-2.中台三賢人

写真家 岩沢正平さん

風景写真・山岳写真を主に撮影されている。
これまで4冊の写真集を作り、各地で個展を開催された。
2009年には、フランス・パリで念願の「尾瀬」の個展を開催した。



書道家 片桐正堂さん

教員を退職後、書を始められる。
2009年頃まで書道教室を開き、多くの教え子がいらっしゃる。
正堂さんへの感謝の印として、教え子たちが建立した筆塚がある。
作品は湯川村体育館や村長室など村内の多くの場所に飾られている。



水墨画家 渡部天随さん

30歳のころ上京し、画家としての活動を行っていく。
内閣総理大臣賞、文部大臣賞、文化功労賞など多くの賞を受賞。
数多くの作品を残し、2010年にこの世を去った。



2-3.お世話になった農家の方々

キュウリ農家：高橋春一さん

- ・中台地区で唯一^んキュウリを生産・出荷している。
- ・東日本大震災後、自ら横浜へ売り込みに行くなど風評被害の払拭に積極的に取り組んでいる。



トマト農家：片桐豊司さん

- ・中台集落では珍しい専業農家。
- ・県の農業分野で最も権威のある「農業10傑」に選ばれ、第54回福島県農業賞を昨年受賞した。



米農家：片桐健一さん

- 特別栽培農作物の認証を受ける高い技術を持った農業者。
- 食味ランクで最高値「特A」（最も美味しい）の評価の中でもさらに品質の高い「会津継承米氏郷」の契約農家。

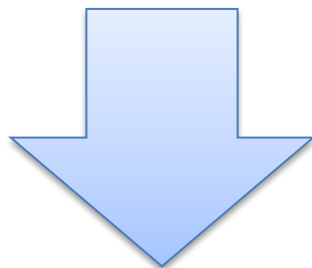


会津継承米 <http://www.keisyoumai.com/>



道の駅駅長のお話

- ①農家に安心して出品してもらえる環境を整える
(委託販売の工夫、直営レストランでの利用など)
- ②地元の農作物を使った加工品を販売したい



○農家が積極的に**新たな作物の生産や生産量を増やすことにチャレンジ**できる！

○「中台」の美味しい農作物を活かした**加工品作り**

2-4.次世代へ伝えたい！

・・・地域の食文化、伝統文化を次世代に伝えていくために



こづゆ



三角
ちまき

ほうき
づくり



こづゆ

各地域、
各家庭の味

ちまき

笹の葉の巻
き方も各家庭
でさまざま

ほうき
づくり

地域で受け
継がれてきた
ほうき・わら
細工の文化

これらの文化を次世代に伝えていくためには・・・

まずは直接文化に触れてもらうことが大切

体験の機会をつくる



2年間の活動を通じて感じたこと



- ・2年間の活動を通じて、私たちが中台集落のために出来たことは、わずかだったかもしれない。
- ・逆に中台の方々から活動メニューを提案していただいたことも多かった。

よりよい実証実験にするために・・・

- ・中台についてもっと知る必要があるのでは...？
→ 継続的に集落と関わる必要があった。

しかし、活動の成果も多くあった。

- ・中台の方々と交流を深めることができた。
- ・中台の良いところ、お宝をたくさん見つけることができた。
- ・農的な暮らしの素晴らしさや可能性を知ることができた。

 **それぞれの地域ごとに素晴らしい伝統や文化がある！
自分たちも地域の文化に目を向け、大切にしていきたい！**

ご清聴ありがとうございました。

